大学体育研究　37：45 － 46，2015

タイ・ラオスでのテニスを通した国際交流

山田幸雄[1)]

4月に体芸テニスコートで開催している筑波大学国際テニストーナメントに関する活動の一環として，東南アジアでテニスを通した国際交流活動を行っている。2014年3月には，タイの3つの都市とラオスのビエンチャンを訪問してテニスの指導を行ってきた。タイでの3つの都市とは，首都のバンコク，東北地方の中心都市であるコンケーン，そしてラオスとの国境に近いウドンタニである。ウドンタニは，ベトナム戦争当時，アメリカ軍の出撃基地として栄えた町である。現在は，静かな美しい町並みが広がっている。ウドンタニから陸路で国境を越えてラオスの首都ビエンチャンを訪問し。帰りは，再度陸路でウドンタニに戻り，そこから空路バンコクに戻った。

交流活動のメインは，テニスの指導とテニスラケットとボールを寄贈することであった。テニスに触れる機会の少ない地域に，テニスの普及をはかるための活動である。寄贈するテニスラケットは，日本のラケットメーカーが試打用ラケットとして1年間使用した中古のラケットである。中古ラケットといっても，試打に用いただけなので，比較的新しく感じられるラケットがほとんどである。

今回の寄贈先は，テニス人口が東南アジア諸国の中で極端に少ないラオスのテニス協会，タイの地方都市のバンドゥン市にある中学・高校の2箇所であった。コンケーンから80kmほど離れたバンドゥン市では，テニスに触れる機会がほとんどないということであった。

バンコクにあるカセサート大学とラチャパット・ウドンタニ大学では，授業時間を使わせていただき，学生に対してテニスの授業を行った。また，バンドゥン市の中学・高校では，初めてテニスを行うという中学生，高校生に対して，テニス部の学生2名と一昨年まで体育学専攻に在籍し，現在は，バンコクの高校で教鞭をとっているムーアン君に手伝ってもらい指導を行った。テニスを教えた後に，中学生や高校生からセパタクロを教わった。セパタクロの試合では，高校生にまったく歯が立たなかった（写真5）。バンドゥン市を訪れた日本人は，久しぶりということであった。

ラオスでは，教育省の建物と国を代表するスポーツ施設が同じ敷地の中にあった。テニスコートも2面あり，ラオスのトップ選手や一般の大人，あるいは将来を目指すジュニアたちが時間を分けありながらプレーしていた。教

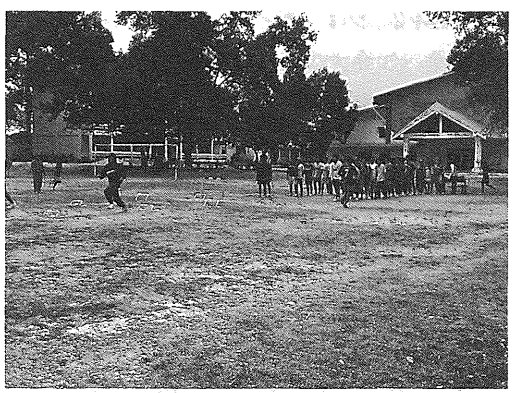

写真1　ラオス唯一の体育大学における授業風景

1）筑波大学体育系

育省を訪問すると大臣が応対してくれ，テニスラケット，テニスボールの寄贈式にも参加してくれた。翌日のラオスの新聞に写真つきで取り上げられていた。大臣は，テニスの指導中もテニスコートの横で見守ってくれ，ほぼ1日付き合ってくれた。(写真4)

ビエンチャンにある体育大学を訪問した。まだ，2年制の短期大学であった。ラオスでは体育の教師になるのに，2年間学べばいいということであった。しかし，他の東南諸国と歩調を合わせるために，そして他の分野と同じように4年制の大学にする必要性が叫ばれ，ようやく1年後に4年制大学に移行するということであった。たぶん，今年の4月から4年制の大学として再出発しているものと思われる。学長は，先生たちをタイに派遣して修士号を取得させているということであった。グラウンドに出て，授業風景を見せてもらった。凸凹のグラウンドで一生懸命授業を受けている学生の姿がすごく印象に残った（写真1)。教室も見学したが机などかなり古いものであった（写真2)。ラオス各地から集まった学生たちは，壊れそうな古い学生寮に住み，一部屋20名くらいで生活していた（写真3)。コンケーン大学の先生たちがラオスの教育のサポートを活発に行っているということであった。

毎年，テニス部の学生を連れて行き，テニスの指導のサポートや実際の指導を行わせている。東南アジア諸国の若者と交流した経験を今後の人生に生かしてほしいものである。

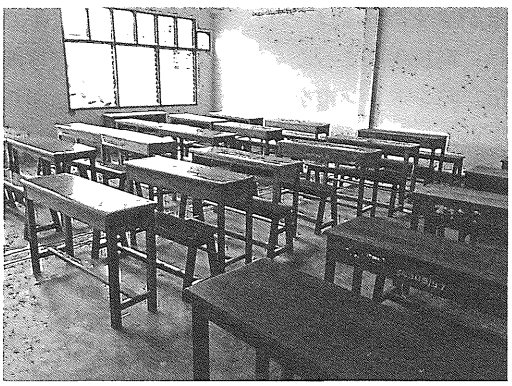

写真2　ラオス唯一の体育大学の教室

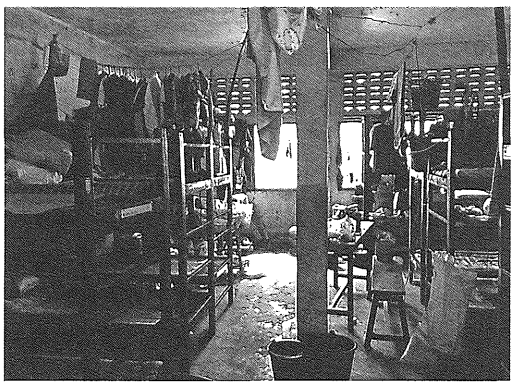

写真3　ラオス唯一の体育大学の宿舎

写真4　ラオスの子供達は元気いっぱいでした

写真5　タイでセパタクロー体験